

配置のコンセプト（案）

（1）壁画について

- 旧国立競技場ではスタジアムの中に配置されていたため入場者しか見ることができなかった壁画を広く公開し、市民が散策できる場所とする。
- 壁画は、雨、紫外線等の影響を受けやすいため、できる限りこれらの要因を排除できる場所とする。

➤ 「野見宿禰」と「ギリシャの女神」

これらの作品は、対をなすもので、かつ、シンボリックなものであることから両作品をひとつのものとして、正面性のある場所に設置する。

➤ 「よろこび」「躍進」「友愛」「勝利」「より高く」「より速く」「動態」「人と太陽」「勝利の場」「飛転」「躍動」

1964年東京オリンピックの時代背景や文化を継承するための重要な資料であるため、ひとかたまりで1964年東京オリンピックを記念できるようなコーナーを配置する。

（2）炬火台（1964年東京オリンピック聖火台）について

- 炬火台は、極めて象徴的なものであり、レガシー時においては象徴的な試合やイベントの際には、点火出来る運用を行う（炬火台の運用については法的確認が必要）。
- 旧国立競技場において、スタンド座席の位置から見える“野見宿禰”、“ギリシャの女神”の壁画と“炬火台”は1964年東京オリンピックのレガシーを分かり易く伝えるシンボリックなものであるため、この3点を集約し、1つのフレームに収まるような場所に配置する。

ただし、今後、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における開閉会式の演出上等の関係から、炬火台を活用することが決定された場合は、必要に応じて見直しを図る。

(3) 銘盤について

- 広く市民の方が見ることができる場所とする。
- 旧国立競技場で開催された過去の大規模な大会の銘盤であるため、できる限りひとまりとする。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会及びその終了後においても、世界的な大会が開始されることを鑑み、冗長性のある場所を選定する。

(4) 出陣学徒の碑

- 学徒出陣の入場口があったと思われる場所(旧国立と同様の位置)に設置する。

(5) 彫刻品(銅像)について

➤ 「健康美」、「青年像」

旧国立競技場では対をなして正面ゲートに配置された象徴的な作品であったため、新計画でも同様に對をし、来場者が一番多いと想定するゲートの場所とする。

➤ 「波」、「無題」

「波」、「無題」とも“水”に関連する作品であることから“水辺の里庭”のゾーンに配置する。

➤ 「円盤投げ像」、「槍投げ像」、「御者像」

それぞれの競技を表現した作品であるため、これらをひとまとまりとして、広く市民の方に見てもらうためゲート付近に配置する。